

ねりま父母連ニュース No. 59

保育園の父母の交流と保護者の願いを実現するために

発行：2023年1月
練馬区保育園父母連
事務局長：満川知代
neri_fubo@yahoo.co.jp

保護者の願い・声を上げ続け、ついに保育料の無償化を実現しました！

東京都は、2023年度から0～2歳の第2子の保育料を独自に無償化する方針を明らかにしました。幼児保育の無償化は3年前からはじまりましたが、今回、懸案になっていた乳児保育の無償化が実現することになります。練馬父母連は、保育料の値上が示された際に、「保育料の値上は中止してください」という陳情を提出、子育て世帯への支援の拡充を求める署名にもとりくんできました。今回、18歳までのこどもに月額5000円も支給される事になりました。

公立保育園廃園？ 子どもたちはどうなるの？

一昨年11月、谷原保育園で保護者が園に子どもを迎えに行くと、「谷原保育園を閉園します」と書かれた「お知らせ」が渡されました。「子どもたちはどうなるの？」と心配する声と区への不信が高まり、区長と区議会宛に、計画の見直しを求めて署名活動をはじめました。署名は、他園保護者や保育関係団体にも広まり、「谷原保育園を守る会」が結成され、区議会宛陳情署名と区長宛「要望書」は短期間に1万筆余が集まりました。（2面参照のこと）

父母連の総会を開催しました

2022年度の父母連総会を9月4日に開催しました。総会では、新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中で父母連の活動を交流し、父母連の活動を紹介しました。

- ①楽しい園生活を送れるように援助をすすめた。
- ②保護者の共通する願いを実現する活動。
- ③谷原保育園の閉園に反対し計画撤回を求める。
- ④委託問題や保育士の大量退職などの取り組み。
- ⑤保育関係諸団体との交流・協力を進める活動。
- ⑥区の所管課から施策の情報を聞き取る活動。
- ⑦情報発信にメール、ソーシャルメディアの活用。
- ⑧親子で楽しめるイベントの開催。

【今後の方針について】コロナ禍で困難な中でも、工夫して交流を進め、保育園児と保護者の願いを実現するために活動していくことを確認。また、谷原保育園の廃園問題を、公立保育園つづきの施策であり、園児の生活の場と発達保障の場を守る問題としてとりくむことを確認しました。

【総会参加者の感想】◆様々な悩みや問題を抱えていることを改めて知りました。

◆子ども達にとっても、先生が辞めないように、親から動くとの考えが全くなかったので心に響いた。

◆父母連が実際どのように活動をしているのか、4年目にしてやっと理解しつつあります。

◆父母の連携が必要だと感じます。できることから一つずつ進めたいと思いました。

◆楽しい行事がなくなり、父母同士の交流が減ってしまうことはとても残念。できることから始めたい。

【総会で選出された2022年度の役員】

岩城明（栄町保育園元父母会長）／小島直子（貫井第2保育園元委託対策委員長）／小松文加（早宮保育園保護者）／佐野明日香（桜台第2保育園保護者）／猿田暁生（練馬保育園前父母会共同代表）／月本敦子（谷原保育園父母会役員）／遠川亜弥子（谷原保育園父母会役員）／古澤光香（貫井第2保育園保護者）／古澤悠（貫井第2保育園保護者）／満川知代（早宮保育園元父母会長）*事務局／宮田真里奈（関町保育園父母会長）／柳沢健二（関町第3保育園元父母会長）／鷲尾聡子（光が丘第4保育園前父母会長）

【学習会を開催しました】

12月に父母連は、保育問題協議会事務局長の伊藤剛さんを招いて、「いま保育園で起きている事」と題して、学習会を開催しました。レジメは「ねりま父母連」のホームページで見ることができます。[ねりま父母連]で検索 <https://neri-fuboren.sai-box.jp/>



公立保育園の廃園から子どもたちを守るために！

谷原保育園の保護者は、区の担当課（保育計画調整課）への働きかけや区議会議員に、「子どもが犠牲になる廃園はしないでください」と声を上げ続けています。谷原保育園の保護者が、区議会議員あてに提出した「お願い」の手紙を紹介します。谷原保育園の保護者の訴えをうけとめて、保育園と子どもを守るために、世論づくりにご協力をお願いします。署名用紙や資料など必要な方は父母連にメールしてください。

谷原保育園保護者からのお願い

— 区議会議員に渡されたお手紙 —

日頃より練馬区のためにご尽力いただきありがとうございます。私たちは練馬区立谷原保育園に子どもを通わせる保護者です。この度、文教児童青少年委員会の皆様にもお願いがあり手紙を書きました。

現在、谷原保育園を廃園するという案が練馬区で進められております。率直に申し上げます。谷原保育園を無くさないでください。練馬区に谷原保育園は必要です。

年月と共に積み重ねられてきた保育士の方々の豊富な経験と知識、保育に対する姿勢、加配が必要なお子さんの実質的な受け入れと関わり、発達障害をお持ちのお子さんも然り。環境として園庭やプールがあるということ、伝統行事、異年齢交流、地域との深いつながり、コロナ禍で果たした区立保育園の役割。さらに細かいことをあげるとしたらキリがありません。私たちは谷原保育園の良さや方針に共感し、子ども達を入園させています。子ども達にとって、また子を預ける親にとっても安心でき、心身ともに健やかに過ごせる大事な場所を無くす意味はどこにあるのでしょうか。谷原保育園に取って代わるものはありません。谷原保育園が無くなることで、一番影響を受けるのはまだ自分の言葉で訴えることができない子どもたちです。子どもたちに代わり、声を上げさせていただきます。ちなみに、これは個の意見ではありません。1万人以上の署名も集まっており、パブリックコメントも多数寄せられている、練馬区民の声ではないでしょうか。

練馬区の保育の在り方は長い月日をかけて素晴らしいものを築き上げていると存じます。子どもたちのためにありがとうございます。区立保育園は区の財産です。なぜ自ら手放すのでしょうか。なぜ建替えではなく廃園にするのか理解に苦しみます。民営化が区の方針だとおっしゃるならば、その区の方針自体の見直しが必要だと感じます。



民営化がどうしても必要であるならば、今の練馬区立園の環境と保育の質を維持し、さらに区内すべての保育園が同じレベルで在るように、具体的にどのような策をご用意されているのか教えていただけますでしょうか。納得できる内容であれば致し方ないと受け入れることができます。

保育、子どもの教育は練馬区の街づくり、練馬区の未来に直結する大事な部分です。本当の意味で、長い目で見ているのであれば、区立園を無くすのは得策ではないと思うのですがいかがでしょうか。議員の皆様はこの問題をどうお考えでいらっしゃいますか？ よろしければご意見お聞かせいただければ幸いです。区の方針だから理解して欲しいという趣旨は保育計画調整課の吉川課長より既にご説明いただいております。そうではなく、具体的なお話をいただければ幸いです。

どうか区議会の委員会で取り上げ、今一度有識者の方々なども含めたより深い議論をしていただけないでしょうか。切に切に願います。どうか私たち区民の声を聞いてください。どうか区民と一緒により良い街づくりを目指す練馬区であってください。可能であれば、お目にかかってお話をさせていただきたいです。

ご多忙かと存じますが、ご検討の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

2022年9月5日

谷原保育園保護者一同

